ある選択。

ピーアールはあの手、この手を使います。

奥の細道・エピローグのシーン

首ふり三年、尺八年。世間で言われる「尺八」イメージは、実際のところこんなものだろう。日本の伝統音楽の中にあって、極めて凡人には縁の薄い存在ではないだろうか。それもこれも伝統という格式にしばられ、暗いイメージ、そして、吹くのも難しく年月がかかるとなると敬遠されるのもさして不思議ではないだろう。極端な話、若い人の中には、ついぞ尺八を見たことも聞いたこともないという人だって現れかねない実情である。「尺八は、どこか別世界の人の吹くもの」、単純な話、現代の日常生活から全く切り離されている以上、このイメージをぬぐい去る事は出来そうもない。

「尺八を吹くのは難しいと皆さんおっしゃいますけど、そんなことないですよ。どんな楽器だってそれなりの練習は必要です。そりゃあうまくなるに越したことはないですけど、まあ一年もあればある程度は吹けます。要するにやる気の問題ですね。」

尺八は、そんなものではないのです。と、語気を強める彼にこうした世間でのイメージを腹立たしくて情けなく思っている熱い気持ちが感じられる。

三好芫山。この世界でかなりの名を馳せている。高2で准師範試験をパス、師範、大師範と人が一生をかけてすることをわずか十数年のうちに成しとげ、30代の若さで手にした允許状は、史上二人目という快挙である。次から次へと試験にパスし、功績をあげ、名も売れ、もはや不満のかけらもないと思うのはどうやら素人の浅はかさらしい。彼の目標は、自分がこうなりたいからとか、もっと腕をあげたいなどという単純なものではない。尺八の魅力を知れば知るほど、我関せずという風潮の世の中が歯がゆくてたまらないのである。

「おこがましいですけど、尺八の世界で頂点を極める（允許状をとったということ）ことが出来た以上、自分のことより、これからは尺八界の将来を担っていきたいと思うのです。

突き進むばかりの彼だったが、今は、尺八を人々の心に浸透させる事に夢中。

「やり方としては、いろいろやってきましたよ。尺八のライヴをしたり、ジャズとあわせたり、オーケストラに参加したりと、つねに新しいものを打ち出してきました。中でも『見る尺八』というのに力を入れていまして、ステージ効果をあげて、演劇と尺八を組ませて、一つのストーリーの中で尺八を見せ、聞かせるということをやっているのです。」

彼は、今に甘んじるということが全くない。挑戦心の固まりといってもいい。「わしがやらねば、誰がやる」精神で、どんどん開発し、企画していく、見る尺八――。ビジュアルで尺八も聞く。「空海」「奥の細道」といったタイトルでその生涯を彼自身が空海に扮し、演技し、そして聞かせる。シンセサイザーだけで他の音を作り、生の音は尺八だけという演出。なんとも神秘的な世界が想像できる。

「しかし、批判も多いですね。見る尺八だなんて邪道だとよくたたかれますけど、今まで通りにしていては、もはや尺八は死んでしまいますよ。私は、尺八を化石にしたくないんです。どんな入り方でもいいから、皆さんに興味をもってもらいたい。それが例え、ビジュアルからでも、ジャズからでも、何でもいいから、尺八の存在というものを感じて欲しいんです。」

切ないほど真剣なまなざし。是が非でもという力強さに圧倒される。

邪道と言われることがやれるのも実績を積んだからこそ。

尺八のすべてを知っているからこそ、伝えたい想いがある。

「尺八はね、表現力が豊かなんですよ。ドはドでしかないという他の楽器とは違うんです。吹き方によってかすれたり、澄んだり、異名同音の良さがあるんです。」

目の前で実演する尺八は、なんとも形容しがたい神秘性が漂っていた。

「食わず嫌いだったかも……。」

意外な雰囲気に包まれて、彼の歯がゆさがずんと胸に響く。

「へェーなかなか新しい、こう思われたらしめたものですね。」

仕掛人の自信がそう言わせた。

●三好芫山（げんざん）　尺八家

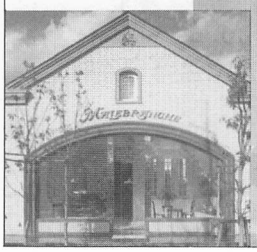
1944年京都生まれ。母親が琴の先生という環境から、中学一年から尺八を習い始める。30歳という若さでわずか史上888名の允許状（いんきょ）獲得者の仲間入りを果たす。75年、グリーンリボン賞新人賞、80年、大阪府文化祭奨励賞受賞。後、ジャズ、フュージョンと他のジャンルとのセッションをもち、数々のライヴをこなす。つねに新しい事を推し進めるバイタリティーは彼特有のものである。

ALL SORTS OF MEN.

京都にはいろんな男がいる

西洋菓子を芸術の調べでラッピング。

京都・北山の緑ゆたかなたたずまいに調和したクラシック流れる店内で、マールブランシュの気品あふれる本格派西洋菓子をどうぞ。
陽射しの強い夏の昼下がりに、マールブランシュはヨーロッパの伝統と高度な技で創られたケーキとサロン・ド・ティでおもてなしいたします。



SANCTUAIRE DE LA PÂTISSERIE EUROPÉENNE

西洋菓子の芸術座

マールブランシュ

〒603 京都市北区北山通植物園北門前

phone.075・722・3399,0404 OPEN 10:00～21:00